

浜の活力再生プラン  
令和 4～8 年度  
(第 2 期)

## 1 地域水産業再生委員会【浜プラン ID : 1132006】

組織名	高知地区地域水産業再生委員会清水部会
代表者名	部会長 問可 柁善 (高知県漁業協同組合理事)

再生委員会の構成員	高知県漁業協同組合清水統括支所、土佐清水市、高知県土佐清水漁業指導所
オブザーバー	

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	<p>地域：高知県土佐清水市（窪津地区、下ノ加江地区を除く）</p> <p>対象漁業種類：サバ立縄釣漁（33 名）、曳縄釣漁（47 名）、メジカ曳縄釣漁（49 名）、底物一本釣漁（43 名）、一本釣漁（97 名）、延縄釣漁（22 名）、エビ建網漁（39 名）、大型定置網漁（2 経営体）</p> <p>※兼業含む</p> <p>※令和 2 年高知県漁協水揚げデータ参照</p>
-------------------	--

## 2 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>当地域は高知県の西部地区にあり、足摺岬に黒潮が接岸することで好漁場が形成されることから、昔から県内屈指の漁業の町として栄えてきた。主要漁業は、サバ立縄釣漁（以下「立縄漁」という。）、メジカ（マルソウダ）を対象としたメジカ曳縄釣漁（以下「メジカ曳縄漁」という。）、カツオ等を対象とした曳縄釣漁（以下「曳縄漁」という。）といった釣り漁業及び定置網漁業である。</p> <p>魚価低迷や燃油高騰の影響は当地区においても深刻な問題で、漁業者の高齢化も併せて漁業経営環境の厳しさが増している。以下に主要漁業の現状を示す。</p> <p><b>【立縄漁】</b></p> <p>立縄漁で漁獲され高知県漁業協同組合清水統括支所（以下「統括支所」という。）に水揚げされたゴマサバは「土佐の清水さば」（以下「清水さば」という。）としてブランド化もされており、土佐清水を代表する魚となっている。清水さばについては、漁業者が 1 匹 1 匹丁寧に釣り上げたサバを漁船に設置した専用の魚槽で泳がせて港へ持ち帰り、市場に設置された専用活魚水槽で 1</p>
--

～3日蓄養した後に、血抜きと神経締め処理を施して県内外へ出荷している。

しかし、生産現場においては高齢化による廃業が後をたたず、かつて100隻以上いた立縄船が現在では20～30隻にまで減少しており、さらに、近年は立縄漁で漁獲されるゴマサバの漁獲量の急減により、顧客の注文に応じきれず欠品が続くなど、活ゴマサバの安定供給が困難になっている。加えて漁業者の収入の低下による経営状況の悪化がさらなる廃業の要因となり、清水さばブランドの存続が危ぶまれる状況にある。

#### 【メジカ曳縄漁】

メジカを原料とする宗田節の生産は土佐清水市が日本一を誇っている。全盛期には市全体で1万トン以上の水揚げがあり、40社以上の宗田節加工業者がひしめいていたことから、土佐清水市の人口の1割がメジカ産業に関わって生活しているとまで言われていた。しかし、近年は、水揚げ量の急減から深刻な原魚不足となっており、市内の加工業者数も以前の半分以下となっている。このような状況を受け、平成25年度より、メジカ曳縄漁業者、統括支所、加工業者、土佐清水市及び高知県土佐清水漁業指導所（以下「指導所」という。）が対策を協議するための「土佐清水市メジカ需給調整対策協議会」を結成し、盛漁期における魚価の低下などの問題の解決に向けて取り組んでいる。

#### 【曳縄漁】

カツオ・マグロ類を対象とする曳縄漁は日帰り操業を行っているため、大型船に比べて漁獲物の鮮度が良く、比較的高値で取引されてきた。しかし、広い海域で船を走らせながら操業するため、燃料費がかさみ、昨今の燃油高騰の影響を大きく受け、不安定な経営状況となっており、減速航行の推進といった省燃油活動の取組や漁獲物への付加価値向上による魚価の向上といった取組による漁業者所得の向上が求められている。

#### 【大型定置網漁】

当地域の沿岸には大型定置網が敷設されており、アジ、メジカ、ブリなど四季折々の魚を水揚げしている。大型定置網は、それぞれの地域において数十人の雇用をもたらすことから、地域の重要な産業として位置付けられている。しかしながら、いずれの大型定置網についても人材不足や水揚げ金額の減少等の問題を抱えている。

#### 【その他の漁業】

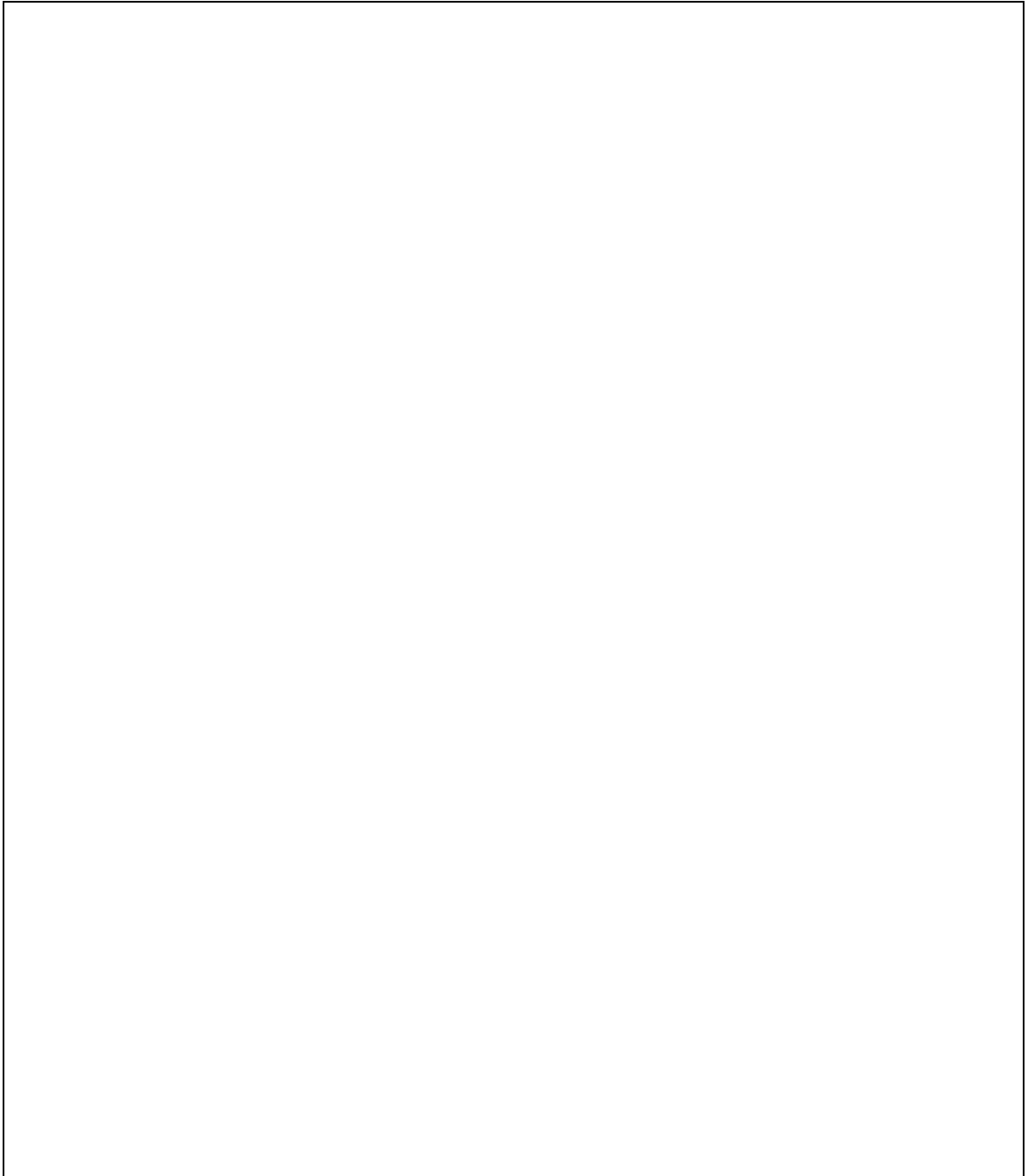
上記の漁業以外に、当地域では、キンメダイやアオダイなどを対象とした底物一本釣漁、イサキやアオダイなど、季節によって様々な魚を漁獲する一本釣漁業、クエ等を対象とした延縄釣漁、イセエビを対象とした建網漁が行われているが、そのほとんどは、他の漁業との兼業で行われている。こうした漁業における経営改善の取組は、減速航行の実施や定期的な船底清掃等による省燃油活動に取り組んでいく程度に留まっている。

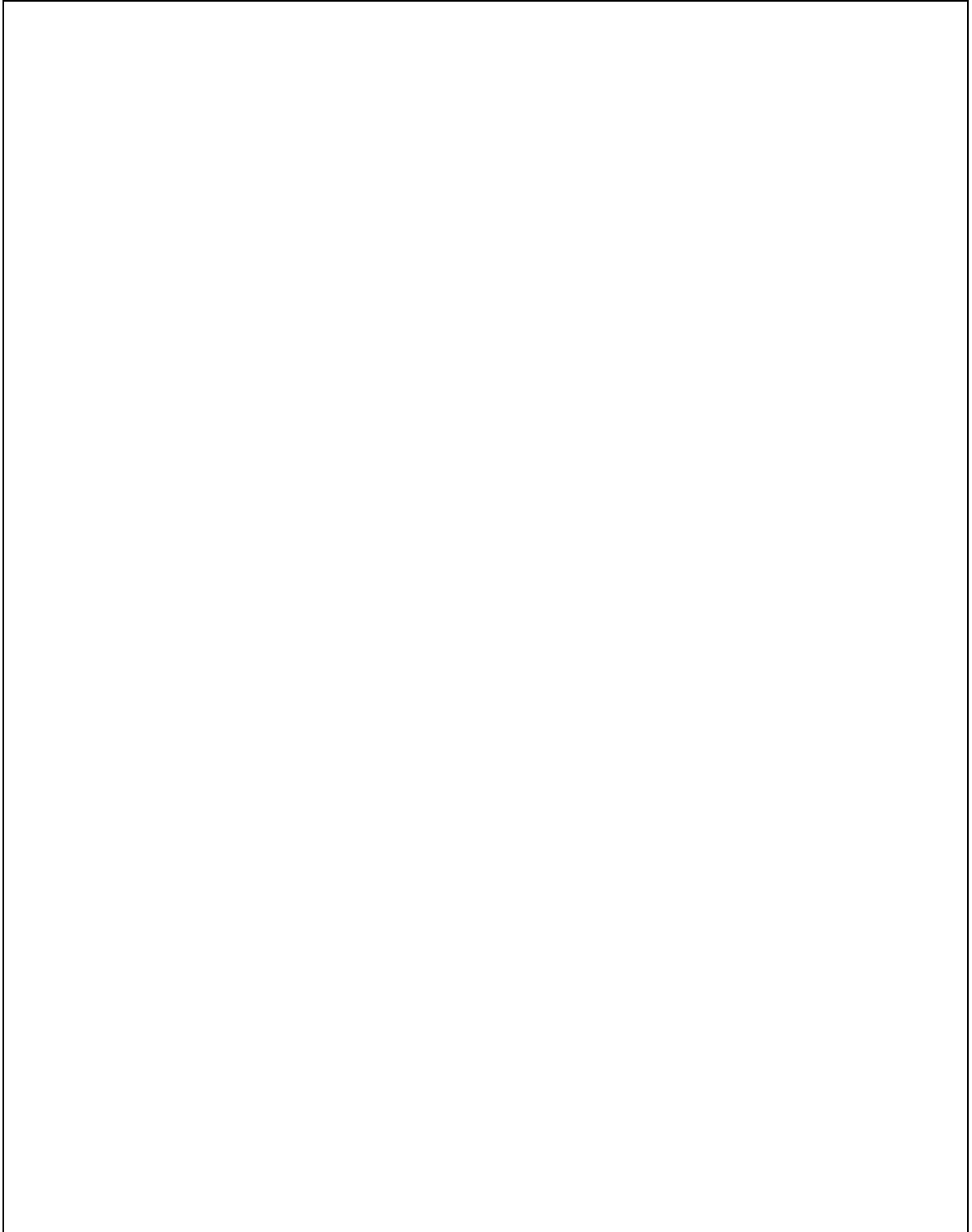
(2) その他の関連する現状等

水産加工会社（㈱土佐清水食品）が急速冷凍機を導入し、地元で仕入れた魚を加工して、県外のホテルやレストランに販売している。また、地震・津波対策として水産業事業継続計画（BCP）を策定している。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等





(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

3の(1)で記した第1期の成果や課題を踏まえ、漁業者と統括支所が中心となり、地域住民や行政と連携し、以下に掲げる取組を行うことで、当地区漁業における生産性の向上とコスト削減を目指す。

## ○漁業収入向上のための取組

### ①水揚物の高付加価値化、効率的な操業及び水揚げの安定化

- ・立縄漁業者と統括支所は、清水さばの活魚出荷など、水揚金額の維持に向けた取組を継続することで、立縄漁業者の収入の安定に努める。
- ・立縄漁業者は、統括支所及び指導所と連携し、主要な漁獲対象となっているゴマサバやハガツオについて、船上での漁獲物取扱い方法や魚倉内での保管温度を見直し、改善することで、傷物などの規格外となる魚を減らし、単価の向上に努める。
- ・大型定置網漁業者と一本釣漁業者（ブリ飼付け漁業者）は、統括支所及び指導所と連携し、主要な漁獲対象となっているブリについて、船上血抜きによる高鮮度処理を行うことで魚体の品質を安定させ、仲買人からの評価向上に伴う単価の向上に努める。
- ・底物一本釣漁業者は、統括支所及び指導所と連携し、キンメダイの神経締めなどの魚体処理や魚倉内の温度管理などの鮮度管理方法を確認し、確立した鮮度管理を新たに始めることで、キンメダイの単価を向上させる。
- ・曳縄及び一本釣漁業者は、統括支所や指導所と連携し、キハダマグロの船上での魚体処理や魚倉内の温度管理などの鮮度管理方法を確認し、確立した鮮度管理を新たに始めることで、キハダマグロの平均単価を向上させる。
- ・メジカ曳縄漁業者、統括支所及び指導所は、県工業技術センターと連携し、メジカの船上及び水揚げ後の鮮度管理を徹底して生食の普及を図ることにより、魚価を向上させる。
- ・大型定置網漁業者は、前期から開始した神経締めなどの高鮮度処理を行う対象魚種の拡大や対象魚種の処理量の増加により、漁獲物の平均単価を向上させる。
- ・大型定置網漁業者は、土佐清水市のふるさと納税の返礼品として未利用魚などを活用した鮮魚BOXの出荷の取組を継続・拡大する。
- ・大型定置網漁の休漁漁場の操業再開により、地区全体の水揚げの維持増大を図る。
- ・釣漁業者は、有害生物（サメ）の駆除により、水揚量を維持する。
- ・「土佐清水市メジカ需給調整対策協議会」において、メジカ曳縄漁業者と加工業者間の需給のバランス等の課題について定期的に対応策を協議し、魚価の低下を防止する施策の実施などの課題解決に向けて取り組む。
- ・土佐清水市は、市が管理する大型冷凍保管施設、共同加工施設、残渣処理施設の加工業者による利用を促進し、大量のメジカが漁獲される最盛期におけるメジカの保管及び加工量の増大につなげる。
- ・統括支所及び全漁業者は、優良衛生品質管理市場認定を取得した清水魚市場（開設者は統括支所）で水揚げされる全ての漁獲物に対し、同制度の認定基準に則った衛生品質管理マニュアルに基づく徹底した鮮度管理と衛生管理を行う。

### ②漁業者の育成と魅力ある漁村づくり

- ・統括支所及び大型定置網漁業者は、新規漁業就業希望者を対象とした漁労技術研修や漁船取得

支援などの漁業就業総合支援事業の有効利用により、定置網漁業及び釣り漁業の新規漁業就業者を確保する。

- ・統括支所は、漁業就業総合支援事業（長期研修制度）の活用により、釣り漁業の短期及び長期研修に必要な漁業技術指導者の確保を進める。
- ・土佐清水市漁業士連絡協議会などの漁業者団体は、地元水産物を使った魚の料理教室や、各種イベントでの地元水産物を使った加工品の販売を行うことで、地元での食育・魚食普及活動を推進する。

### ③漁村とその周辺環境の保全及び水産資源の維持・増大

- ・統括支所及び全漁業者は、水産業事業継続計画（BCP）に基づく災害対策の推進及びBCPの普及啓発により、災害発生時の減災や防災、災害発生後の漁業の継続や復興対策を進める。
- ・漁業者を中心とした地元住民グループは、サンゴ群落の保全、藻場の再生および磯焼け対策としてのオニヒトデやウニなどの食害生物の駆除や小学校などでの環境保全の授業実施などにより、生態系の保全、水産資源の維持増大を図る。

### ○漁業コスト削減のための取組

#### ①燃油の急騰に対する備え

- ・統括支所は、燃油の急騰による漁業コストの圧迫に備えるため、全漁業者の漁業経営セーフティネット構築支援事業への加入を推進する。

#### ②省燃油活動の推進

- ・統括支所は、減速航行などの省燃油活動を継続し、地区全体で低コスト操業の推進を図る。

### (3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

漁獲努力量の削減等については、資源管理計画〔種苗放流、大型定置網漁やメジカ曳縄漁における休漁期の設定（定置網漁：年間20日間の休漁、メジカ曳縄漁：年間60日間の休漁）、メジカ曳縄漁における操業時間及び漁獲制限（操業時間：16時まで、漁獲制限：2tまで）〕を確実に履行している。また、操業にあたっては高知県漁業調整規則、高知海区漁業調整委員会指示等の法令を遵守している。

### (4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（令和4年度）所得5.6%向上

漁業収入向上のための取組	<b>①水揚げ物の高付加価値化、効率的な操業及び水揚げの安定化</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・立縄漁業者と統括支所は、清水さばの活魚出荷など、水揚げ金額の維持に向けた取組を継続することで、立縄漁業者の収入の安定に努める。</li><li>・立縄漁業者は、主要な漁獲対象となっているゴマサバとハガツオについて、</li></ul>
--------------	--

	<p>氷焼けや傷などの理由で規格外として扱われることがあることから、統括支所及び指導所と連携し、漁獲後の船上での取扱い方法や魚倉内での保管方法などにおける問題点を整理し、漁獲から水揚げまでの鮮度管理方法を決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大型定置網漁業者と一本釣漁業者（ブリ飼付け漁業者）は、主要な漁獲対象となっているブリについて、以前から魚体筋肉中に血がまわっていることが仲買人から問題視されていることから、統括支所及び指導所と連携し、船上血抜きによる高鮮度処理を試験的に行い、仲買人に評価してもらうことで、ニーズや評価に応じた漁獲後の処理方法を確立する。</li> <li>・底物一本釣漁業者は、キンメダイの付加価値を高めるため、統括支所及び指導所と連携し、キンメダイの鮮度管理先進地域における神経締めなどの船上での魚体処理方法や、底物一本釣漁業者の船の魚倉内水温などの鮮度管理方法の確立に必要な情報の収集・分析、仲買人などからのニーズ調査を行う。</li> <li>・曳縄及び一本釣漁業者は、キハダマグロの付加価値を高めるため、統括支所及び指導所と連携し、キハダマグロの鮮度管理先進地域における神経締めなどの船上での魚体処理方法や、曳縄及び一本釣漁業者の船の魚倉内水温などの鮮度管理方法の確立に必要な情報の収集・分析を行う。</li> <li>・メジカ曳縄漁業者、統括支所及び指導所は、県工業技術センターと連携し、通常は加工用原魚として扱われるメジカの生食普及を進めるため、メジカの船上及び水揚げ後の鮮度管理方法や生食の安全性を検証する。</li> <li>・大型定置網漁業者は、漁獲物の付加価値を高めるため、統括支所及び仲買人と連携し、神経締めの対象魚種や処理量を拡大し、漁獲物の品質向上に伴う単価向上及び水揚げ金額の増加を図る。</li> <li>・大型定置網漁業者は、土佐清水市のふるさと納税の返礼品として、未利用魚などを活用した鮮魚BOXの出荷の取組を継続しながら、インターネットなどを通じて、消費者の鮮魚BOXに対する評価や要望を調査する。</li> <li>・休漁漁場であった定置網漁場（貝ノ川大敷）の操業を再開し、地区全体の水揚げを増加させる。</li> <li>・以前から土佐清水市内の立縄漁を始めとする漁業種では、サメによる漁具の破損や漁獲物の損失などサメ被害に悩まされてきた。そこで当地区の全漁業者は、市内の下ノ加江地区や窪津地区などの漁業者とも連携しながら、漁場におけるサメ被害対策としてサメ駆除を実施する。</li> <li>・「土佐清水市メジカ需給調整対策協議会」において、メジカ曳縄漁業者と加工業者間の需給のバランス等の課題について定期的に対応策を協議し、課題解決に向けて取り組む。また、土佐清水市は、当地区で水揚げされるメジカの保管及び加工量の増大につなげるため、市が管理する大型冷凍保管施</li> </ul>
--	---

	<p>設、共同加工施設、残渣処理施設の加工業者の利用を促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統括支所及び全漁業者は、優良衛生品質管理市場認定を取得した清水魚市場（開設者は統括支所）で水揚げされる全ての漁獲物に対し、同認定基準に則った衛生品質管理マニュアルに基づく徹底した鮮度管理と衛生管理を行う。</li> </ul> <p><b>②漁業者の育成と魅力ある漁村づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統括支所及び大型定置網漁業者は、県が実施している漁業就業総合支援事業による漁労技術研修や漁船取得支援を積極的に活用し、新規就業者の受け入れを行う。若い新規就業者を増やすことにより、漁村を活性化し、生産量の維持及び漁業収入の向上につなげる。</li> <li>・土佐清水市漁業士連絡協議会などの漁業者団体は、地元水産物を使った魚の料理教室や、各種イベントでの地元水産物を使った加工品の販売を行うことで、地元での食育・魚食普及活動を推進する。</li> </ul> <p><b>③漁村とその周辺環境の保全及び水産資源の維持・増大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支所及び全漁業者は、水産業事業継続計画（BCP）に基づく災害対策の推進及びBCPの普及啓発により、災害発生時の減災や防災、災害発生後の漁業の継続や復興対策を進める。</li> <li>・漁業者を中心とした地元住民グループは、サンゴ群落の保全、藻場の再生および磯焼け対策としてのオニヒトデやウニなどの食害生物の駆除や小学校などでの環境保全の授業実施などにより、生態系の保全、水産資源の維持増大を図る。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p><b>①燃油の急騰に対する備え</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統括支所は、燃油の急騰による漁業コストの圧迫に備えるため、全漁業者の漁業経営セーフティネット構築支援事業への加入を推進する。</li> </ul> <p><b>②省燃油活動の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全漁業者は、減速航行の徹底、定期的な船底清掃の実施による航行時の抵抗削減、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化など、省燃油に繋がる活動を実施し、燃油消費量を抑制する。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営セーフティネット構築支援事業 高知県漁業就業総合支援事業 水産多面的機能発揮対策事業 種子島周辺漁業対策支援事業</p>



	リマ区域周辺漁業用施設設置事業
--	-----------------

2年目（令和5年度）所得 6.3%向上

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p><b>①水揚げ物の高付加価値化、効率的な操業及び水揚げの安定化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立縄漁業者と統括支所は、清水さばの活魚出荷など、水揚金額の維持に向けた取組を継続することで、立縄漁業者の収入の安定に努める。</li> <li>・立縄漁業者は、ゴマサバとハガツオについて、統括支所や指導所と連携し、前年度に決定した鮮度管理方法を徹底し、随時、改善することで単価の向上を図る。</li> <li>・大型定置網漁業者と一本釣漁業者（ブリ飼付け漁業者）は、ブリについて、統括支所や指導所と連携し、前年度に確立した漁獲後の魚体処理方法を徹底し、随時、改善することで単価の向上を図る。</li> <li>・底物一本釣漁業者は、統括支所及び指導所と連携し、キンメダイの鮮度管理先進地域における神経締めなどの船上での魚体処理方法や、底物一本釣漁業者の船の魚倉内水温などの鮮度管理方法の確立に必要な情報の収集・分析、仲買人などからのニーズ調査を継続しながら、鮮度管理方法を確立する。</li> <li>・曳縄及び一本釣漁業者は、統括支所及び指導所と連携し、キハダマグロの鮮度管理先進地域における神経締めなどの船上での魚体処理方法や、曳縄及び一本釣漁業者の船の魚倉内水温などの鮮度管理方法の確立に必要な情報の収集・分析を継続しながら、鮮度管理方法を確立する。</li> <li>・メジカ曳縄漁業者、統括支所及び指導所は、県工業技術センターと連携し、メジカの生食普及を進めるため、メジカの船上及び水揚げ後の鮮度管理方法や生食での安全性の検証を継続する。</li> <li>・大型定置網漁業者は、統括支所及び仲買人と連携し、前年に拡大した神経締めの対象魚種や処理量を維持し、漁獲物の品質向上に伴う単価向上及び水揚げ金額の増加を図る。</li> <li>・大型定置網漁業者は、鮮魚BOXの出荷の取組について、インターネットなどを通じて得た消費者の評価や要望を活かしながら、取組を継続する。また、鮮魚BOXを活用して、神経締め魚を含めた漁獲物の知名度向上を図る。</li> <li>・休漁漁場であった定置網漁場（貝ノ川大敷）の操業を継続し、地区全体の水揚げを維持する。</li> <li>・当地区の全漁業者は、市内の下ノ加江地区や窪津地区などの漁業者とも連携しながら、漁場におけるサメ被害対策としてサメ駆除を実施する。</li> <li>・「土佐清水市メジカ需給調整対策協議会」において、メジカ曳縄漁業者と加工業者間の需給のバランス等の課題について定期的に対応策を協議し、課</li> </ul>
---------------------	--

	<p>題解決に向けて取り組む。また、土佐清水市は、当地区で水揚げされるメジカの保管及び加工量の増大につなげるため、市が管理する大型冷凍保管施設、共同加工施設、残渣処理施設の加工業者の利用を促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統括支所及び全漁業者は、市場で水揚げされる全ての漁獲物に対し、清水魚市場衛生品質管理マニュアルに基づく徹底した鮮度管理と衛生管理を行う。</li> </ul> <p><b>②漁業者の育成と魅力ある漁村づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統括支所及び大型定置網漁業者は、県の漁労技術研修や漁船取得支援を積極的に活用し、新規就業者の受け入れを行う。若い新規就業者を増やすことにより、漁村を活性化し、生産量の維持及び漁業収入の向上につなげる。</li> <li>・土佐清水市漁業士連絡協議会などの漁業者団体は、地元水産物を使った魚の料理教室や、各種イベントでの地元水産物を使った加工品の販売を行うことで、地元での食育・魚食普及活動を推進する。</li> </ul> <p><b>③漁村とその周辺環境の保全及び水産資源の維持・増大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統括支所及び全漁業者は、水産業事業継続計画（BCP）に基づく災害対策の推進及びBCPの普及啓発により、災害発生時の減災や防災、災害発生後の漁業の継続や復興対策を進める。</li> <li>・漁業者を中心とした地元住民グループは、オニヒトデやウニなどの食害生物の駆除や小学校などでの環境保全の授業実施などにより、生態系の保全、水産資源の維持増大及び活動の拡大を図る。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p><b>①燃油の急騰に対する備え</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統括支所は、全漁業者の漁業経営セーフティネット構築支援事業への加入を推進する。</li> </ul> <p><b>②省燃油活動の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全漁業者は、減速航行の徹底、定期的な船底清掃の実施による航行時の抵抗削減、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化など、省燃油に繋がる活動を実施し、燃油消費量を抑制する。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営セーフティネット構築支援事業  高知県漁業就業総合支援事業  水産多面的機能発揮対策事業  種子島周辺漁業対策支援事業  リマ区域周辺漁業用施設設置事業</p>

3年目（令和6年度）所得7.5%向上

漁業収入向上のための取組	<p><b>①水揚物の高付加価値化、効率的な操業及び水揚げの安定化</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・立縄漁業者と統括支所は、清水さばの活魚出荷など、水揚金額の維持に向けた取組を継続することで、立縄漁業者の収入の安定に努める。</li><li>・立縄漁業者は、ゴマサバとハガツオについて、統括支所や指導所と連携し、1年目に決定した鮮度管理方法を徹底し、随時、改善することで単価の向上を図る。</li><li>・大型定置網漁業者と一本釣漁業者（ブリ飼付け漁業者）は、ブリについて、統括支所や指導所と連携し、1年目に確立した漁獲後の魚体処理方法を徹底し、随時、改善することで単価の向上を図る。</li><li>・底物一本釣漁業者は、統括支所と連携し、前年までに確立した方法によるキンメダイの船上での神経締めなどの魚体処理や魚倉内の温度管理などの鮮度管理を徹底し、単価を向上させる。・曳縄及び一本釣漁業者は、統括支所と連携し、前年までに確立した方法によるキハダマグロの船上での魚体処理や魚倉内の温度管理などの鮮度管理を徹底し、単価を向上させる。 (目標単価 919 円/kg、基準単価 (833 円/kg) から 10%向上)</li><li>・メジカ曳縄漁業者、統括支所及び指導所は、県工業技術センターと連携し、メジカの生食普及を進めるため、メジカの生食での安全性の検証を終え、メジカを安全に生食できる船上及び水揚げ後の鮮度管理方法を定める。</li><li>・大型定置網漁業者は、統括支所及び仲買人と連携し、1年目に拡大した神経締めの対象魚種や処理量を維持し、漁獲物の品質向上に伴う単価向上及び水揚げ金額の増加を図る。</li><li>・大型定置網漁業者は、鮮魚BOXの出荷の取組について、インターネットなどを通じて得た消費者の評価や要望を活かしながら、取組を継続する。また、鮮魚BOXを活用して、神経締め魚を含めた漁獲物の知名度向上を図る。</li><li>・休漁漁場であった定置網漁場（貝ノ川大敷）の操業を継続し、地区全体の水揚げを維持する。</li><li>・当地区の全漁業者は、市内の下ノ加江地区や窪津地区などの漁業者とも連携しながら、漁場におけるサメ被害対策としてサメ駆除を実施する。</li><li>・「土佐清水市メジカ需給調整対策協議会」において、メジカ曳縄漁業者と加工業者間の需給のバランス等の課題について定期的に対応策を協議し、課題解決に向けて取り組む。また、土佐清水市は、当地区で水揚げされるメジカの保管及び加工量の増大につなげるため、市が管理する大型冷凍保管施設、共同加工施設、残渣処理施設の加工業者の利用を促進する。</li><li>・統括支所及び全漁業者は、市場で水揚げされる全ての漁獲物に対し、清水魚市場衛生品質管理マニュアルに基づく徹底した鮮度管理と衛生管理を行う。</li></ul>
--------------	---

	<p><b>②漁業者の育成と魅力ある漁村づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統括支所及び大型定置網漁業者は、県の漁労技術研修や漁船取得支援を積極的に活用し、新規就業者の受け入れを行う。若い新規就業者を増やすことにより、漁村を活性化し、生産量の維持及び漁業収入の向上につなげる。</li> <li>・土佐清水市漁業士連絡協議会などの漁業者団体は、地元水産物を使った魚の料理教室や、各種イベントでの地元水産物を使った加工品の販売を行うことで、地元での食育・魚食普及活動を推進する。</li> </ul> <p><b>③漁村とその周辺環境の保全及び水産資源の維持・増大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統括支所及び全漁業者は、水産業事業継続計画（BCP）に基づく災害対策の推進及び BCP の普及啓発により、災害発生時の減災や防災、災害発生後の漁業の継続や復興対策を進める。</li> <li>・漁業者を中心とした地元住民グループは、オニヒトデやウニなどの食害生物の駆除や小学校などでの環境保全の授業実施などにより、生態系の保全、水産資源の維持増大及び活動の拡大を図る。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p><b>①燃油の急騰に対する備え</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統括支所は、全漁業者の漁業経営セーフティネット構築支援事業への加入を推進する。</li> </ul> <p><b>②省燃油活動の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全漁業者は、減速航行の徹底、定期的な船底清掃の実施による航行時の抵抗削減、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化など、省燃油に繋がる活動を実施し、燃油消費量を抑制する。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営セーフティネット構築支援事業  高知県漁業就業総合支援事業  水産多面的機能発揮対策事業  種子島周辺漁業対策支援事業  リマ区域周辺漁業用施設設置事業</p>

4年目（令和7年度）所得9.4%向上

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p><b>①水揚げ物の高付加価値化、効率的な操業及び水揚げの安定化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立縄漁業者と統括支所は、清水さばの活魚出荷など、水揚げ金額の維持に向けた取組を継続することで、立縄漁業者の収入の安定に努める。</li> <li>・立縄漁業者は、ゴマサバとハガツオについて、統括支所や指導所と連携し、</li> </ul>
---------------------	--

	<p>1年目に決定した鮮度管理方法を徹底し、随時、改善することで単価の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大型定置網漁業者と一本釣漁業者（ブリ飼付け漁業者）は、ブリについて、統括支所や指導所と連携し、1年目に確立した漁獲後の魚体処理方法を徹底し、随時、改善することで単価の向上を図る。</li> <li>・底物一本釣漁業者は、統括支所と連携し、2年目までに確立した方法によるキンメダイの船上での神経締めなどの魚体処理や魚倉内の温度管理などの鮮度管理を徹底し、単価を向上させる。</li> <li>・曳縄及び一本釣漁業者は、統括支所と連携し、2年目までに確立した方法によるキハダマグロの船上での魚体処理や魚倉内の温度管理などの鮮度管理を徹底し、単価を向上させる。</li> </ul> <p>（目標単価 1004 円/kg、基準単価（833 円/kg）から 21%向上）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メジカ曳縄漁業者及び統括支所は、前年までの検証結果から定めた「メジカを安全に生食するための船上及び水揚げ後の鮮度管理方法」に基づく鮮度管理を徹底して行い、土佐清水市内の飲食店での生食普及を進める。指導所は、メジカ曳縄漁業者及び支所の鮮度管理の徹底を指導する。</li> <li>・大型定置網漁業者は、統括支所及び仲買人と連携し、1年目に拡大した神経締めの対象魚種や処理量を維持し、漁獲物の品質向上に伴う単価向上及び水揚げ金額の増加を図る。</li> <li>・大型定置網漁業者は、鮮魚BOXの出荷の取組について、インターネットなどを通じて得た消費者の評価や要望を活かしながら、取組を継続する。また、鮮魚BOXを活用して、神経締め魚を含めた漁獲物の知名度向上を図る。</li> <li>・休漁漁場であった定置網漁場（貝ノ川大敷）の操業を継続し、地区全体の水揚げを維持する。</li> <li>・当地区の全漁業者は、市内の下ノ加江地区や窪津地区などの漁業者とも連携しながら、漁場におけるサメ被害対策としてサメ駆除を実施する。</li> <li>・「土佐清水市メジカ需給調整対策協議会」において、メジカ曳縄漁業者と加工業者間の需給のバランス等の課題について定期的に対応策を協議し、課題解決に向けて取り組む。また、土佐清水市は、当地区で水揚げされるメジカの保管及び加工量の増大につなげるため、市が管理する大型冷凍保管施設、共同加工施設、残渣処理施設の加工業者の利用を促進する。</li> <li>・統括支所及び全漁業者は、市場で水揚げされる全ての漁獲物に対し、清水魚市場衛生品質管理マニュアルに基づく徹底した鮮度管理と衛生管理を行う。</li> </ul> <p><b>②漁業者の育成と魅力ある漁村づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統括支所及び大型定置網漁業者は、県の漁労技術研修や漁船取得支援を積極</li> </ul>
--	--

	<p>的に活用し、新規就業者の受け入れを行う。若い新規就業者を増やすことにより、漁村を活性化し、生産量の維持及び漁業収入の向上につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土佐清水市漁業士連絡協議会などの漁業者団体は、地元水産物を使った魚の料理教室や、各種イベントでの地元水産物を使った加工品の販売を行うことで、地元での食育・魚食普及活動を推進する。</li> </ul> <p><b>③漁村とその周辺環境の保全及び水産資源の維持・増大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統括支所及び全漁業者は、水産業事業継続計画（BCP）に基づく災害対策の推進及び BCP の普及啓発により、災害発生時の減災や防災、災害発生後の漁業の継続や復興対策を進める。</li> <li>・漁業者を中心とした地元住民グループは、オニヒトデやウニなどの食害生物の駆除や小学校などでの環境保全の授業実施などにより、生態系の保全、水産資源の維持増大及び活動の拡大を図る。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p><b>①燃油の急騰に対する備え</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統括支所は、全漁業者の漁業経営セーフティネット構築支援事業への加入を推進する。</li> </ul> <p><b>②省燃油活動の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全漁業者は、減速航行の徹底、定期的な船底清掃の実施による航行時の抵抗削減、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化など、省燃油に繋がる活動を実施し、燃油消費量を抑制する。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営セーフティネット構築支援事業 高知県漁業就業総合支援事業 水産多面的機能発揮対策事業 種子島周辺漁業対策支援事業 リマ区域周辺漁業用施設設置事業</p>

5年目（令和8年度）所得 11.3%向上

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p><b>①水揚げの高付加価値化、効率的な操業及び水揚げの安定化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立縄漁業者と統括支所は、清水さばの活魚出荷など、水揚金額の維持に向けた取組を継続することで、立縄漁業者の収入の安定に努める。</li> <li>・立縄漁業者は、ゴマサバとハガツオについて、統括支所や指導所と連携し、1年目に決定した鮮度管理方法を徹底し、随時、改善することで単価の向上を図る。</li> <li>・大型定置網漁業者と一本釣漁業者（ブリ飼付け漁業者）は、ブリについて、</li> </ul>
---------------------	---

	<p>統括支所や指導所と連携し、1年目に確立した漁獲後の魚体処理方法を徹底し、随時、改善することで単価の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・底物一本釣漁業者は、統括支所と連携し、2年目までに確立した方法によるキンメダイの船上での神経締めなどの魚体処理や魚倉内の温度管理などの鮮度管理を徹底し、単価を向上させる。</li> <li>・曳縄及び一本釣漁業者は、統括支所と連携し、2年目までに確立した方法によるキハダマグロの船上での魚体処理や魚倉内の温度管理などの鮮度管理を徹底し、単価を向上させる。</li> </ul> <p>(目標単価 1,090 円/kg、基準単価 (833 円/kg) から 31%向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メジカ曳縄漁業者、統括支所は、3年目に定めた「メジカを安全に生食するためのメジカの船上及び水揚げ後の鮮度管理方法」に基づく鮮度管理を引き続き徹底して行い、土佐清水市内の宿泊施設及び周辺市町村の飲食店での生食普及を進める。指導所は、前年に引き続きメジカ曳縄漁業者及び支所の鮮度管理の徹底を指導する。</li> <li>・大型定置網漁業者は、統括支所及び仲買人と連携し、1年目に拡大した神経締めの対象魚種や処理量を維持し、漁獲物の品質向上に伴う単価向上及び水揚げ金額の増加を図る。</li> <li>・大型定置網漁業者は、鮮魚BOXの出荷の取組について、インターネットなどを通じて得た消費者の評価や要望を活かしながら、取組を継続する。また、鮮魚BOXを活用して、神経締め魚を含めた漁獲物の知名度向上を図る。</li> <li>・休漁漁場であった定置網漁場(貝ノ川大敷)の操業を継続し、地区の全体の水揚げを維持する。</li> <li>・当地区の全漁業者は、市内の下ノ加江地区や窪津地区などの漁業者とも連携しながら、漁場におけるサメ被害対策としてサメ駆除を実施する。</li> <li>・「土佐清水市メジカ需給調整対策協議会」において、メジカ曳縄漁業者と加工業者間の需給のバランス等の課題について定期的に対応策を協議し、課題解決に向けて取り組む。また、土佐清水市は、当地区で水揚げされるメジカの保管及び加工量の増大につなげるため、市が管理する大型冷凍保管施設、共同加工施設、残渣処理施設の加工業者の利用を促進する。</li> <li>・統括支所及び全漁業者は、市場で水揚げされる全ての漁獲物に対し、清水魚市場衛生品質管理マニュアルに基づく徹底した鮮度管理と衛生管理を行う。</li> </ul> <p><b>②漁業者の育成と魅力ある漁村づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統括支所及び大型定置網漁業者は、県の漁労技術研修や漁船取得支援を積極的に活用し、新規就業者の受け入れを行う。若い新規就業者を増やすことにより、漁村を活性化し、生産量の維持及び漁業収入の向上につなげる。</li> </ul>
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土佐清水市漁業士連絡協議会などの漁業者団体は、地元水産物を使った魚の料理教室や、各種イベントでの地元水産物を使った加工品の販売を行うことで、地元での食育・魚食普及活動を推進する。</li> </ul> <p><b>③漁村とその周辺環境の保全及び水産資源の維持・増大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統括支所及び全漁業者は、水産業事業継続計画（BCP）に基づく災害対策の推進及び BCP の普及啓発により、災害発生時の減災や防災、災害発生後の漁業の継続や復興対策を進める。</li> <li>・漁業者を中心とした地元住民グループは、オニヒトデやウニなどの食害生物の駆除や小学校などでの環境保全の授業実施などにより、生態系の保全、水産資源の維持増大及び活動の拡大を図る。</li> </ul>
漁業コスト削減のための取組	<p><b>①燃油の急騰に対する備え</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統括支所は、全漁業者の漁業経営セーフティネット構築支援事業への加入を推進する。</li> </ul> <p><b>②省燃油活動の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全漁業者は、減速航行の徹底、定期的な船底清掃の実施による航行時の抵抗削減、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化など、省燃油に繋がる活動を実施し、燃油消費量を抑制する。</li> </ul>
活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築支援事業 高知県漁業就業総合支援事業 水産多面的機能発揮対策事業 種子島周辺漁業対策支援事業 リマ区域周辺漁業用施設設置事業

(5) 関係機関との連携

取組の効果が十分に発揮されるように、系統団体（高知県漁業協同組合等）、地域団体（土佐清水市水産振興協議会）等との連携を強めるとともに、県内外の流通・販売業者、飲食店等についても新たな連携を構築する。

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上 10%以上	基準年	平成 28～令和 2 年の 5 中 3 平均 漁業所得（地区総額） 円
	目標年	令和 8 年度 漁業所得（地区総額） 円



(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

(3) 所得目標以外の成果目標

メジカ（マルソウダ）の生食 普及による魚価向上	基準年	平成 28－令和 2 年の 5 中 3 平均	113 円/kg
	目標年	令和 8 年度	121 円/kg

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>所得目標算出に同じ（所得目標の構成要素である） 詳細は別添資料参照</p>
--

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティ ネット構築支援事業	燃油価格高騰時に補填を受け漁業経営の安定を図る。
高知県漁業就業総合 支援事業	新規漁業就業希望者の受け入れにより、漁業後継者の確保と地域の活性化を図る。
水産多面的機能発揮 対策事業	ウニ駆除やオニヒトデ駆除を行うことにより、沿岸の藻場、サンゴ群落等の生態系を保全する。この活動を通じて、沿岸漁場の保全を図る。
種子島周辺漁業対策 支援事業	各種水産加工施設の整備を行い、メジカ漁獲量の向上と水産加工業の振興を図る。
リマ区域周辺漁業施 設設置事業	各種水産加工施設の整備を行い、メジカ漁獲量の向上と水産加工業の振興を図る。